

- 被災職員が薬剤費を自己負担した場合の記載例
- 被災職員及び医療機関（薬局）が記入した後、領収証書などを添付して所属に提出

この面は被災職員が記入

様式第6号

薬局

### 療養補償請求書

認定番号		〇〇-〇〇〇〇〇〇	
請求回数		第2回（〇〇年〇月分）	
請求年月日		令和〇〇年〇月〇日	
請求者の住所		〇〇市〇〇町〇〇番地	
ふりがな		あきじろう	
氏名		安芸二郎	
1 補償費用の受領委任	この請求書による療養補償の費用の受領を.....に委任します。 委任者の氏名.....		
	上記委任に基づき、この請求書による療養補償の費用の支払を請求します。		
	受任者の 住所..... 医療機関等の名称..... 氏名（代表者名）.....		
2 被災する職員事項	所属団体名	所属部局名（電話番号〇〇〇〇-〇〇-〇〇〇〇）	
	〇〇市	〇〇部 〇〇課 〇〇係	
	氏名 安芸二郎 S〇〇年〇〇月〇〇日生（〇〇歳）	職名 主事	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 令第1条職員
	負傷又は発病の年月日	令和〇〇年〇月〇〇日	
3 診療費	内訳は「*10 診療費請求明細」欄記載のとおり		円
4 調剤費	内訳は「*11 調剤費請求明細」欄記載のとおり		1,820 円
5 看護料	<input type="checkbox"/> 訪問看護 内訳は「*12 訪問看護事業者の証明」欄記載のとおり		円
	年 月 日から	日間	看護師の資格 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
6 移送費	<input type="checkbox"/> 交通費		円
	から まで キロメートル	<input type="checkbox"/> 片道 <input type="checkbox"/> 往復	回
<input type="checkbox"/> その他の移送費			
7 上記以外の療養費			円
8 療養補償請求金額（3~7の合計額）			1,820 円
9 送金希望の場合	振込み	振込先金融機関名 〇〇銀行 〇〇支店	預金名義者名 法人機関又は役職の名称（個人名義の場合は記入不要です。）
		口座番号 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	
		<input checked="" type="checkbox"/> 普通預金 <input type="checkbox"/> 当座預金	
	送金小切手	銀行 支店	
その他			
*受理		*通知	*支払
年 月 日		年 月 日	年 月 日
			*決定金額
			円

記入不要

〔注意事項〕

- 1 請求者は、\*印の欄には記入しないこと。また、該当する□にV印を記入すること。
- 2 「認定番号」の欄は、第1回目の請求においては、記入する必要はないこと。
- 3 「1 補償費用の受領委任」の欄は、診療に当たった医師若しくは医療機関等、調剤に当たった薬剤師若しくは薬局又は訪問看護を行った訪問看護事業者に療養補償の費用の受領を委任しようとする場合にのみ記入すること。
- 4 「5 看護料」及び「6 移送費」については、訪問看護の場合を除き、費用の領収書又はこれに代わる証明書及び明細書を添付すること。
- 5 「7 上記以外の療養費」の欄には、入院料に食事代を含まない場合の食事料及び「3 診療費」に含まれない療養に必要な治療材料の名称、数量及び費用を記入し、その領収書及び明細書を添付すること。
- 6 「\*10 診療費請求明細」、「\*11 調剤費請求明細」又は「\*12 訪問看護事業者の証明」欄の記入に代えて同様事項を記載した医師、歯科医師若しくは柔道整復師、薬剤師又は訪問看護事業者の証明書を添付してもよいこと。
- 7 「診療報酬点数表により計算できないもの」の欄には、金額及びその明細（例えば診断書料、入院室料差額等）を記入すること。

